

国語 第2学年 思いうかべたことをもとに、お話をしようかいしょう 検討会の想定問答

指摘 1: ねらいが曖昧ではないか。この単元で何を身に付けさせたいのか。

返し: 中心はC(1)エの「場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像すること」。本時も単元の問いも、みきのしたことを手がかりに様子を思い浮かべることに絞っている。合わせて、C(1)イのあらすじをつかむ学習と、〔知識及び技能〕(1)カの主語と述語を評価する。

指摘 2: 評価規準は何か。どこで見るのか。

返し: 3観点で書いた。文末は国立教育政策研究所の参考資料に合わせ、知識・技能と思考・判断・表現は「～している」、態度は「～しようとしている」。知識・技能①は第3時のノートと第8時の紹介文、②は第10時の読書記録、思考・判断・表現①は第4時のあらすじ、②は第6・7時の吹き出しとノート、態度①は第1時、第8時の見直し、第10時の振り返りで見る。

指摘 3: 言語活動は何か。

返し: C(2)イの「読み聞かせを聞いたり物語などを読んだりして、内容や感想などを伝え合ったり、演じたりする活動」。本時の動作化は「演じたり」に当たり、単元の終わりの紹介文は「内容や感想などを伝え合ったり」に当たる。

指摘 4: 気持ちを聞く授業にしないのはなぜか。

返し: 第1学年及び第2学年のC(1)エは「登場人物の行動を具体的に想像すること」で、気持ちの変化を想像するのは第3学年及び第4学年のC(1)エになる。この学年では、したことからその時の様子を思い浮かべることを中心にし、気持ちを表す言葉は様子を言い表す時に使う範囲で扱う。

指摘 5: 動作化は遊びにならないか。

返し: 動作をする前に、どの言葉を動作にするかを線で決めさせる。動作の後は、見ていた子に「どんな様子に見えたか」と「どの言葉からそう見えたか」を必ず聞き、本文に戻す。動作で表すことはC(2)イの言語活動の例に挙がっており、ここでは想像したことを確かめる手段として使う。

指摘 6: 個に応じた指導はどうするのか。

返し: 吹き出しが書けない子には「～だから、～した」の型と様子を表す言葉の一覧を渡す。読むのが苦手な子には、本時の場面だけの拡大した本文（ふりがな付き）を渡し、線を引く所を先生が一か所示す。早く終わった子には二つ目の吹き出しを書かせる。第3の1(9)の「困難さに応じた指導内容や指導方法の工夫」に当たる。

指摘 7: ICTは使わないのか。

返し: 動作化の様子を端末で撮り、全体で見返して、動作の違いから様子の違いを話し合える。吹き出しを共有の画面に集めれば、同じしたことへの想像の違いを一度に比べられる。第3の2(2)の「コンピュータや情報通信ネットワークを積極的に活用する機会」に当たる。端末が無ければ黒板に吹き出しを貼って比べる。

指摘 8: 教科書の手引きどおりでいいのか。独自性はあるのか。

返し: 手引きは指導事項に沿って作られているので外す理由はない。この指導案は指導事項から組んであり、教材を替えても使える。独自の所は、毎時間「したことに線を引く→動作をする→吹き出しを書く」の同じ手順で進めることと、吹き出しを場面ごとの紙にためて紹介文の材料にすること。

指摘 9: 10時間は多い。時間が足りない。

返し: 10時間は光村図書の年間指導計画例の配当に合わせた。削るなら、第1時と第2時を合わせ、第9時の読み合いと第10時の振り返りを合わせる。第10時の本を読む時間は、第3の1(6)にあるとおり学校図書館の時間と重ねれば、単元の時数を増やさずにできる。配当は年間指導計画に合わせる。

指摘 10: 振り返りは何を書かせるのか。

返し: 本時は「どの言葉からみきの様子を思いうかべたか」と「友達の吹き出しでいいなと思ったこと」の二つ。一つ目でC(1)エの「場面の様子に着目して」ができたかを、二つ目で友達の考えにふれたかを確かめる。

指摘 11：学習指導要領のどこに書いてあるのか。

返し：第2〔第1学年及び第2学年〕2内容C読むこと(1)イ・エと(2)イ、〔知識及び技能〕(1)カ・(3)エ、学年の目標(2)(3)。原文は授業の設計図の「学習指導要領のどこに書いてあるか」の欄に載せた。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

